



通信

HP 学校だより
R8.1.29
NO.36
文責 伊藤美佳



「いのち」を考える

27日（火）に4年生が助産師さんをお招きして、「いのちのはじまり」と「うまれること」について学びました。助産師さんが模型を使って「いのち」のはじまりについて説明してくださいました。子どもたちは、たった1つの卵子が4億の精子の中の1つと出会うことで「いのちがはじまる」というお話を聞いて、とてもびっくりしていました。「いのち」を育てるために、お母さんの子宮にはベッドができること、妊娠していない時には、そのベッドは外に出され、それを「生理」ということなども学びました。最後に、産道の模型を使って「うまれる」経験もさせてもらいました。

この学びをとおして、かけがえのない「いのち」という意味がわかり、自分はもちろん、他の人の「いのち」も大切に思える豊坂っ子になってくれると信じています。



心合わせて 長縄とび

1月28日（水）になわとび大会を開催しました。個人の短縄は、各学年で行いますが、長縄は、全校で一斉に行います。クラス目標を決め、超えられるようにチャレンジタイムや昼休みを使って練習していました。「目標を達成できた」とうれしそうに教えてくれる子たちもいます。それぞれの目標に向かって、みんなで力を合わせている様子を見ると、元気ももらえます。もちろん、怖がっている子がいたら、タイミングを教えたり、引っかかってしまった子がいたら、「大丈夫だよ」と声をかけたり、この時期にクラス一丸となる体験をすることができます。目標に達しなかった時の悔しさを味わうことも、大切な経験です。子どもたちにとって、かけがえのない時間になると信じています。初めは怖がっていた1年生が、長縄を跳べるようになる瞬間に立ち会えると、ついつい「やったね」と声が出てしまいます。



心温まる場面

- ① 朝、健康観察をした後、係の子が保健室までチェック表をもって来てくれます。今までは、そのまま積み上げていました。全校のチェックをする先生のために、右のように分けて並べてくれていました。心がほっこりしました。
- ② 6年生が1年生になわとびの技を教えたり、一緒に練習したりしていました。「あこがれ」の姿を見せてくれることで、1年生の子たちも「あんなふうに跳びたい」と思ったことでしょう。卒業まであと少し。6年生が他の学年とたくさんかかわって、すてきな思い出をいっぱいつくってほしいです。

